

■基礎タスク■

☺実施者の発話	留意点
<p>■「教室」カード(1)</p>	
<p>○「これからカードを見て、先生と少しお話をします。 先生が言うことがわからない時は、わからないと言ってもいいですよ。では始めましょう」</p> <p>①「ここはどこですか」</p> <p>②「この部屋に、何がありますか」</p> <p>③「先生の机はありますか」</p> <p>④「では、先生のいすは？」</p> <p>⑤「先生はいますか」</p> <p>⑥「では、子どもは？」</p> <p>⑦「ペンはどこにありますか」</p> <p>⑧「時計はありますか」</p> <p>⑨「今、何時だと思えますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問の順番を変えないこと ・ 質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・ 絵を指差して「ここ」と言われぬように気をつける。 ・ 質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・ 「ペン」を「鉛筆」と言い換えてもよい。 ・ ①の答えの中に時計が含まれている場合は、「時計がありますね」とする。
<p>■「スポーツ」カード(2)</p>	
<p>①「スポーツ(運動)が好きですか」</p> <p>②「○○さん/くんは、どんなスポーツ(運動)ができますか」</p> <p>③「(スポーツ名)は？」</p> <p>④「(スポーツ名)をしたことがありますか」</p> <p>⑤「(スポーツ名)と(スポーツ名)と、どちらが好きですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをまだ直接経験していない子どもの場合は、親や年上の兄弟ができるスポーツについて聞く。 ・ 質問文を途中の形にして、「できます・できません」を誘導する。 ・ スポーツ名がまだ分からない年少児の場合は、評価者が絵を指でさして、「これ」と「これ」とどちらが好きかと聞くとよい。
<p>■「日課<起床><登校><就寝>」カード(3)</p>	
<p>①「今朝、何時に起きましたか」</p> <p>②「それから何をしましたか」</p> <p>③「いつも何時ごろ寝ますか」</p> <p>④「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。 寝るまでのことを話してください」</p> <p>ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間について質問する。 ・ 過去形の定着度を調べる。 ・ 習慣的動作について質問する。 ・ 「て形」を使って、動作を時系列でつなげることができるかどうかを見る。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

質問にだいたい答えられたら、間を空けずにそのまま対話タスクへ進む。

■対話タスク■

😊 実施者の発話	留意点
■ 「先生に質問」カード (4) A,B	
<p>(4)A</p> <p>① 「大変です。〇〇さん/くんは、トイレに行きたく（お腹が痛く）になりました。先生に何と言いますか。私は先生です」</p> <p>(4)B</p> <p>① 「〇〇さん/くんは、教科書を忘れました。隣の席の友だちに見せてもらいたいです。その友だちに何と言いますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの下の、「トイレ/お腹が痛い子ども」の絵を指差して質問する。 ・許可を求められるかどうかを見る。 ・Aに続いて今度は、カード下の「教科書」の絵を指差して質問する。 ・依頼ができるかどうかを見る。
■ 「新しい先生」カード (5)	
<p>① 「今日から新しい先生です。まず、自分（〇〇さん/くん）の紹介をしてください。それから、先生に質問を2つしてください。私はその新しい先生です」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施者は新しい先生の役割りをする。
■ 「友達を誘う」カード (6)	
<p>① 「今日、学校が終わったら、〇〇さん/くんと遊びたいです。〇〇さん/くんを誘ってください。下駄箱のところで会いました」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入会話のところで聞いておいた、友達の名前を使う。そして、実施者は友達役をする。 ・このタスクは、子どもが進んで自ら話を切り出し、誘い、時間、場所などを決めて、会話をしめくくる力を見るものであるから、実施者が主導権を持ってしまわないように留意する。
■ 「キャッチボール事件」カード(7)	
<p>① 「〇〇さん/くんは、今友達とキャッチボールをしています。このようなことが起こりました。この家の人(女の子)にしたことを話して、丁寧に謝ってください」</p> <p>② 「何をしたんですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カード(左)(中)(右)を順に指さしながら説明する。 ・実施者はこの家の人(カード(右)の 女の子)の役割をする。怒っている様子を演じる。

ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

タスクがだいたいこなせたら、間を空けずにそのまま認知タスクへ進む。

■認知タスク■

●子どもの年齢(学年)に応じてカードを3, 4枚(低学年は2枚カード8, 9のみ)選んで実施する。

☺ 実施者の発話	留意点
■「お話」カード(8)(低・中学年)	
①「小さい子どもが何かお話をすると頼みました。お話をし てあげてください」	・1つお話を選んで話す。なるべく 「三匹のこぶた」を勧める。
■「消防車」カード(9)(低・中学年)	
①「この車の名前を知っていますか」	・二つの車両を順番に指差して、質 問する。 ・二つの車両の働きで、共通点と相違 点を質問する。
②「どんな働きをする車ですか。何のために使いますか」	
③「同じところは何ですか/違うところは何ですか」	
■「キャッチボール事件の報告」カード(10)(中学年以上)	
○(「キャッチボール事件」カード(7)を使って)	・一連の事件について理由をふまえて、 説明できるかどうかを見る。
①「このカードを見てください。このカードを使って、起こ ったことを先生に報告してください」	
■「環境問題」カード(11)(中学年以上)	
①「地球が泣いています。どうして泣いていると思いますか」	・中学生向けの設問。要因、仕組みに ついて教科の用語を使って説明でき るかを見る。
②「どうすればいいと思いますか」	
③「温暖化について学校で習いましたか。温暖化がどうして起 こるか説明してください」	
■「地震」カード(12)(中学年以上)	
①「地震に遭ったことがありますか」	・子ども自身が地震を体験したことが ない場合には、親の体験などについ て話すよう促す。
②「その時のことを話してください」	
③「学校で地震が起きたら、どうしますか」	・中学生向けの設問。要因、仕組みに ついて教科の用語を使って説明でき るかを見る。
④「地震について学校で習いましたか。地震がどうして起こ るか説明してください」	
■「水の循環」カード(13)(高学年・中学生)	
①「水の流れについて説明してください」	・小学校高学年・中学生向きの設問。
②「私たちが飲む水は、どこからきていると思いますか」	
③「雨が降らなかったら、地球はどうなると思いますか」	
④「太陽がなかったら、どうなると思いますか」	
■「蝶の一生」(14)(高学年・中学生)	
①「これは何ですか」	
②「はい、蝶ですね。蝶の一生について話してください」	



「これで終わりです。どうもありがとうございました」